

旧作新学校本館（作新記念館）保存整備事業

1 文化財の概要

文化財の名称	所在地	指定年月	建築概要
市指定有形文化財（建造物） 旧作新学校本館	長野市稲里町下水鉋 50 （下水鉋小学校敷地内）	昭和 56 年 8 月 17 日	明治 16 年（1883）上棟 木造総 2 階建、寄棟造 瓦葺、延床 327.22 m ²

2 保存整備事業の概要

- ▶ 目的：建物全体の経年劣化が著しく、屋根瓦の葺替えや壁の塗替え等の保存修理を行うもの。整備後は、子ども達が地域の歴史と文化をより深く学ぶ施設として活用するため、保存修理に加えて耐震補強及び必要な環境整備を行う。
- ▶ 期間：令和 4 年度 実施設計
令和 5 年度～令和 7 年度 保存修理工事
- ▶ 内容：【建築工事】解体、木工、屋根及びびとい、左官、建具、耐震補強等
【電気設備工事】電灯設備、火災報知設備、避雷設備等
【機械設備工事】空気調和設備、換気設備、衛生器具設備、給水設備、排水設備等
- ▶ 工事費：171,655 千円
 - （内訳）旧作新学校本館保存修理工事実施設計業務委託 6,270 千円
 - 旧作新学校本館保存修理工事監理業務委託 9,383 千円
 - 旧作新学校本館保存修理工事 125,895 千円
 - 旧作新学校本館保存修理電気設備工事 13,838 千円
 - 旧作新学校本館保存修理機械設備工事 16,269 千円



外観（竣工写真）



2 階多目的室（竣工写真）

3 展示整備事業の概要

- ▶ 目的：下水鉋小学校（教員・保護者等）、更北地区住自協と協議の上、明治 16 年に建造された建物景観を活かして、更北地区の歴史や文化、保存修理工事の概要、地域の方々と共に歩んできた歴史を学ぶことができる展示整備を行う。
- ▶ 期間：令和 6 年度 実施設計
令和 7 年度 展示整備
- ▶ 内容：【展示整備】説明パネル、案内サイン等作成・設置
- ▶ 委託費：6,006 千円
 - （内訳）旧作新学校本館展示設計業務委託 2,178 千円
 - 旧作新学校本館展示作成業務委託 3,828 千円

4 今後の事業予定

- 令和 8 年 2 月 21～22 日：【内覧会】 地域関係者、一般市民向け内覧会
- 令和 8 年 4 月 25 日：【記念式典】

旧松代藩鐘楼外壁修繕工事

1 文化財の概要

文化財の名称	所在地	指定年月	概要
市指定有形文化財（建造物） 旧松代藩鐘楼	長野市松代町松代 166-2 番地ほか	昭和 42 年 12 月 20 日	享和元年（1801）建築、木造 3 階建、延床 134.51 m ²

松代町のほぼ中央に位置する旧松代藩鐘楼は、江戸時代初期に松代藩主・真田信之が、松代へ入封した直後に建てたといわれる。現在の鐘楼は享和元年に再建されたもので、昼夜の区別なく一刻ごとに時刻を知らせたほか、城下で出火があった際にも非常を知らせていた。

昭和 42 年（1967）に、松代藩の歴史を伝え、建造物としても貴重であるとして長野市の有形文化財に指定され、地域のシンボルとなっている。

◎これまでの経過

享和 元年（1801）	前年の火災を受け、鐘楼を再建
平成 22 年（2010）	鐘楼保存修理工事の実施設計
平成 23 年（2011）	保存修理工事に着手
平成 26 年（2014）	保存修理工事が完了
令和 2 年（2020）	前年の台風被害を受け、応急修繕を実施

2 工事の概要

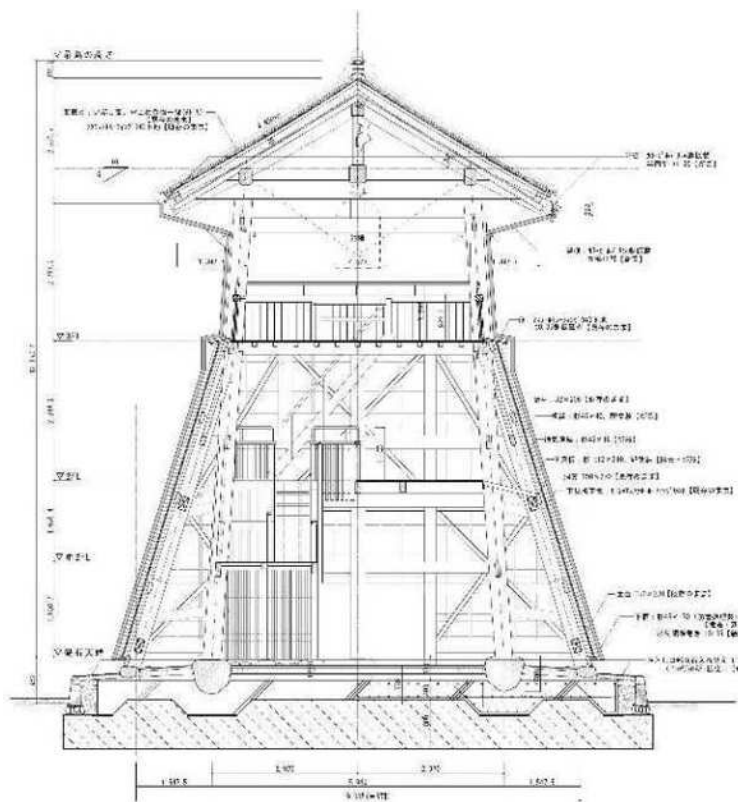
- ▶ 目的：下見板の経年劣化が著しく破損が深刻であったため、全面的修繕工事を行う。また、劣化の原因と想定される雨水対策として、下見板とルーフィング材の間に通気性を高めるための胴縁を新設するとともに、雨垂れを防止するための雨樋の新設も行う。
- ▶ 期間：令和 7 年 11 月 17 日から令和 8 年 3 月 3 日まで
- ▶ 内容：【改修工事】解体、木工、とい、塗装、板金等
- ▶ 工事費：22,550 千円



鐘楼外観（北西から）



破損状況（拡大）



設計図（梁間方向）

国宝（建造物）善光寺本堂ほか 保存活用事業

事業者 氏名：宗教法人 善光寺
住所：長野県長野市大字長野字元善町 491
代表役員：寺務総長

1 文化財の概要と事業の必要性

(1) 事業の対象となる重要文化財の名称、所在地、指定年月等

文化財の名称	所在地	指定年月	建築年代
国宝 善光寺本堂	長野市大字長野字元善町 491	昭和 28 年 3 月 31 日	宝永 4 年 (1707)
重要文化財 善光寺三門		昭和 40 年 5 月 29 日	寛延 3 年 (1750)
重要文化財 善光寺経蔵 等		昭和 40 年 5 月 29 日	宝暦 4 年 (1754)

2 事業概要

(1) 観光拠点整備（活用環境強化）事業

- ①事業期間 令和 6 年度（2024）～令和 8 年度（2026）
- ②事業費 【R6】 16,686千円（国10,011千円(60%)／県166千円(1%)／市 2,502千円(15%)）
【R7】 14,300千円（国 8,580千円(60%)／県143千円(1%)／市 2,145千円(15%)）
【R8】 85,880千円（国 5,000千円(60%)／県858千円(1%)／市12,882千円(15%)）
- ③事業内容
令和 5 年認定「保存活用計画」に基づき、多様な来訪者等に対応した活用環境強化を進めるもの（R6：本堂スロープ新設、R7～8：本堂西側石畳改修、R8：本堂東トイレ改修）。

(2) 建造物保存修理（先端技術活用調査）事業

- ①事業期間 令和 7 年度（2025）～令和 9 年度（2027）
- ②事業費 【R7】 7,720千円（国 3,860千円(50%)／県 0千円(0%)／市1,158千円(15%)）
【R8】 14,620千円（国 7,310千円(50%)／県146千円(0%)／市2,193千円(15%)）
【R9】 21,729千円（国17,534千円(50%)／県273千円(0%)／市5,260千円(15%)）
- ③事業内容
「保存活用計画」に基づき、本堂・三門・経蔵を 3D 計測し、定期的なモニタリングによって建物破損の進行状況の把握、適切な修理時期・規模の特定などに活用する（R7：三門・経蔵、R8～9：本堂）。



経蔵 3D 測量図

三門 3D 測量図

県天然記念物戸隠神社奥社社叢 保存活用事業・水路整備事業

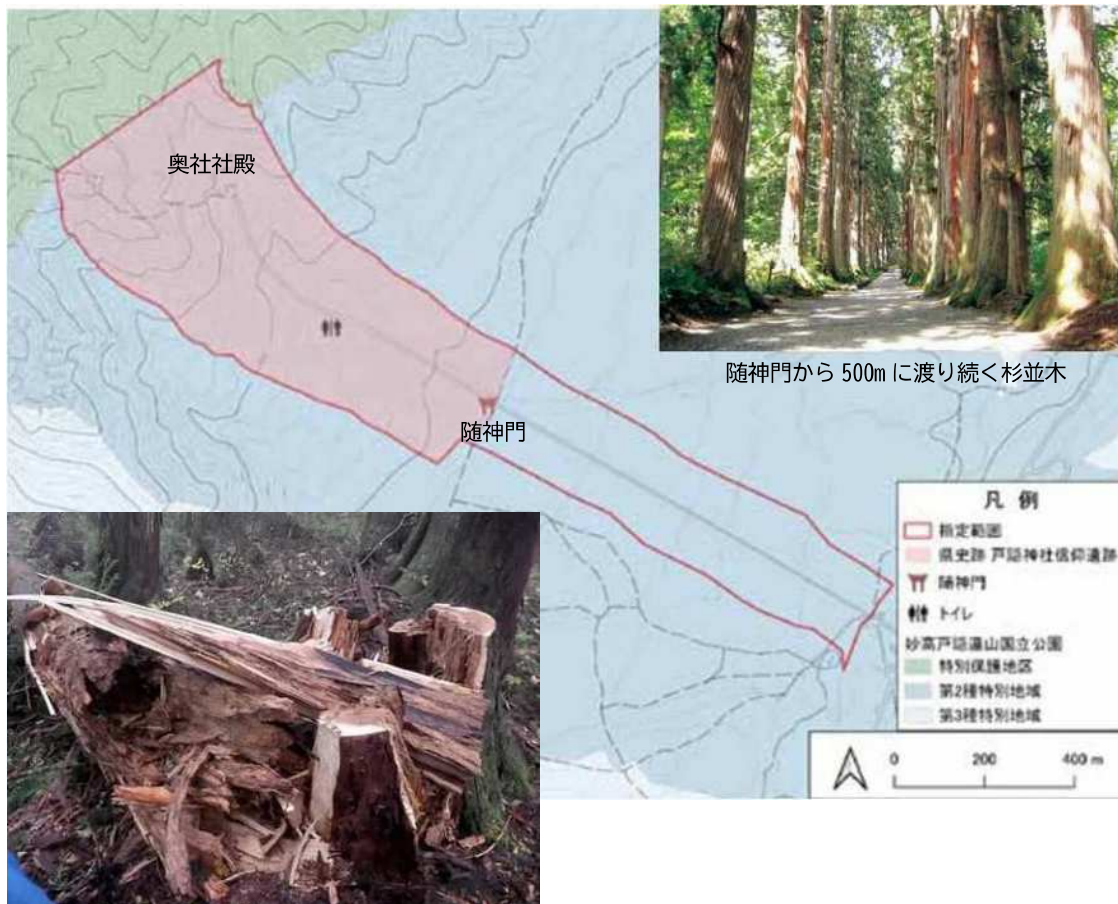
1 文化財の概要

(1) 文化財指定の状況

- 昭和48年、県天然記念物「戸隠神社奥社社叢」指定（50.9ヘクタール）
- 昭和54年、県史跡「戸隠神社信仰遺跡」指定（25.5ヘクタール）

(2) 近年の経過

平成21(2009)年度	戸隠奥社の杜と杉並木を守る会（会長：戸隠神社宮司）発足
平成22(2010)年度	守る会が毎木調査に着手（以後、5年毎に実施）
平成29(2017)年度	10月23日、台風21号により参道のスギ3本を含む計6本が幹折れ 3月、戸隠神社が保存活用計画策定支援について県知事へ請願
平成30(2018)年度	保存活用計画策定事業に着手（県・市にて補助金交付）
令和4(2022)年度	3月、保存活用計画を策定
令和5(2023)年度～	保存活用計画に定めた現状変更等行為に係る手続きフロー運用開始 水路整備事業に着手（県・市にて補助金交付）



平成29年台風21号で発生した杉並木のスギの倒伏

2 水路整備事業について

(1) 現状の課題

- 降雨時に参道内に雨水が流入し、参道面が洗堀（根系の露出、遺構のき損）
- 洗堀された参道面には、通行者の安全確保のため砂利を敷設（域外から資材搬入）
- 過去の便益施設整備の際に水路が付け替えられ、院坊跡に水が流入（遺構のき損）

(2) 事業の目的

- 指定範囲における雨水排水の現況を把握し、文化財保存のための水路整備を行う

(3) 事業の体制

事業主体：宗教法人戸隠神社（文化財所有者）

支 援：長野県（事業費の1/3を補助）、長野市（事業費の1/5を随伴補助）

協 議 会：戸隠奥社の杜協議会（所有者・地元関係者・有識者・関係行政機関）

(4) 事業計画（予定）

令和5～6年度：基本設計 / 令和7年度：詳細設計 / 令和8年度：整備（施工）



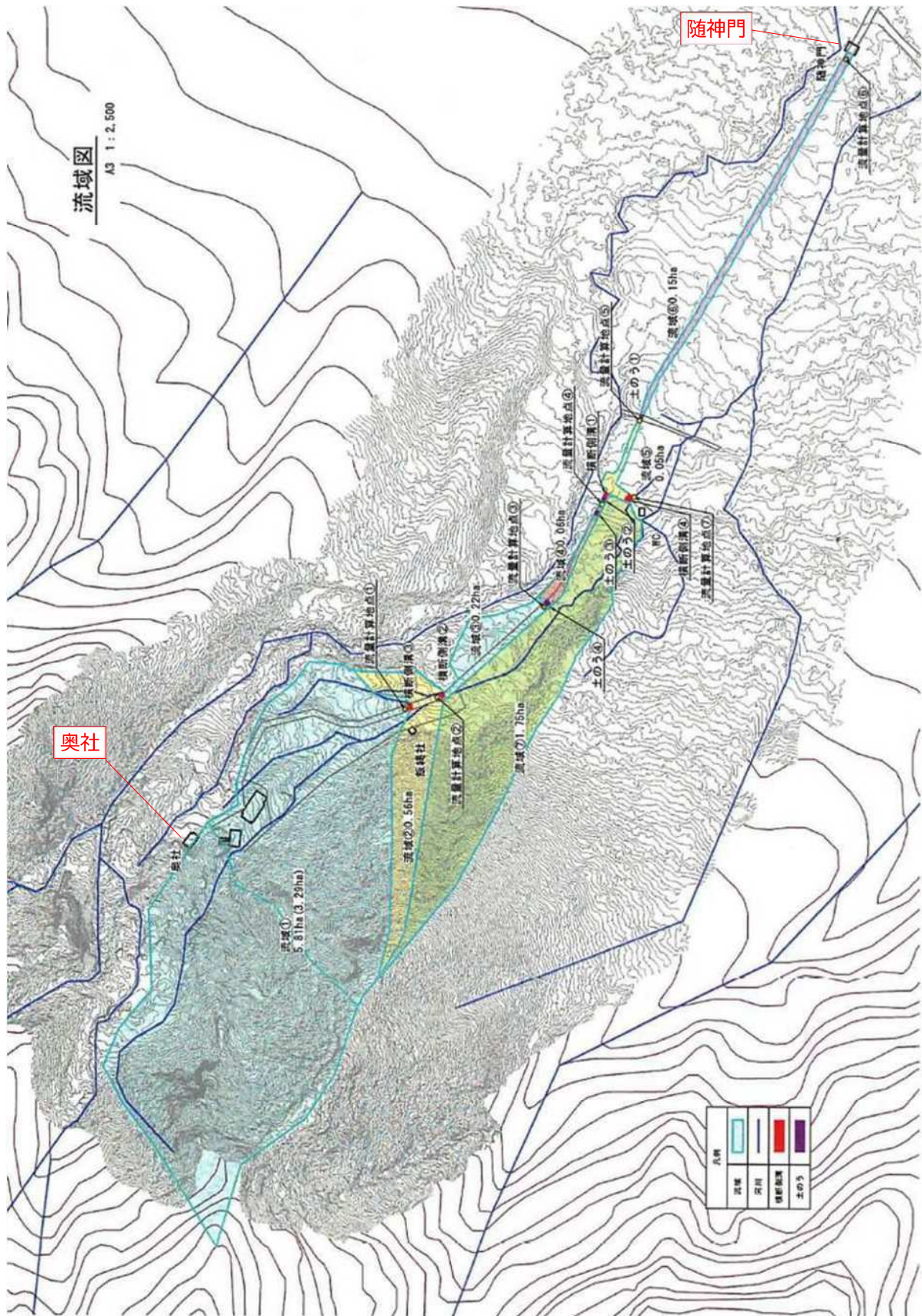
豪雨時の溢水状況



院坊跡に流入する水路

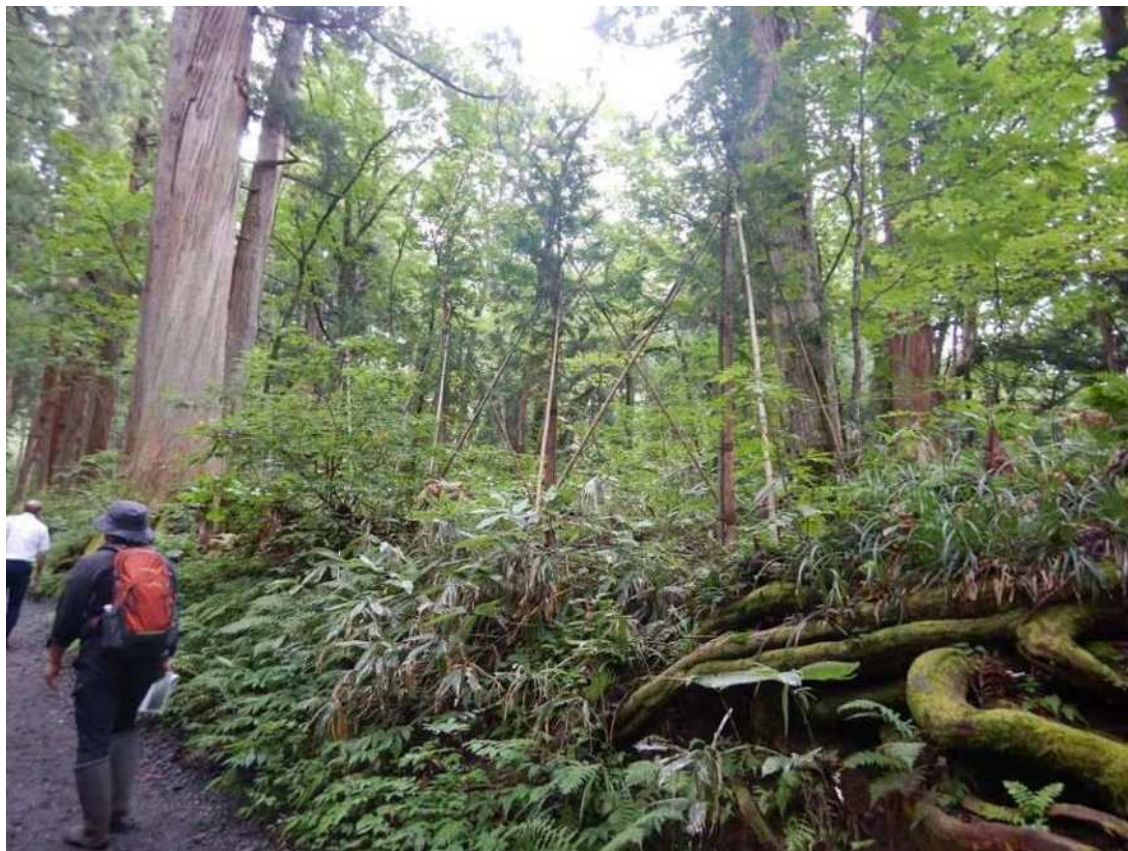


既存横断側溝①

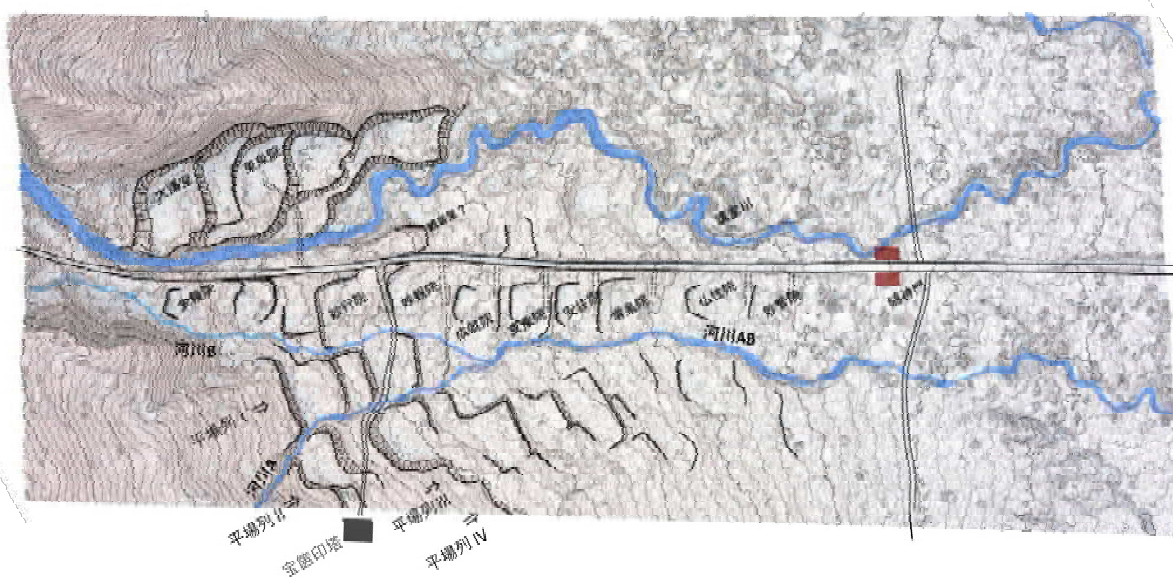


指定地における流域図（随神門～奥社社殿周辺）

3 その他の事業について



試験的に補植されたスギ（光量確保のため周辺の広葉樹の伐採・枝下しを実施）



人工的な地形改変部分（保存活用計画書より）